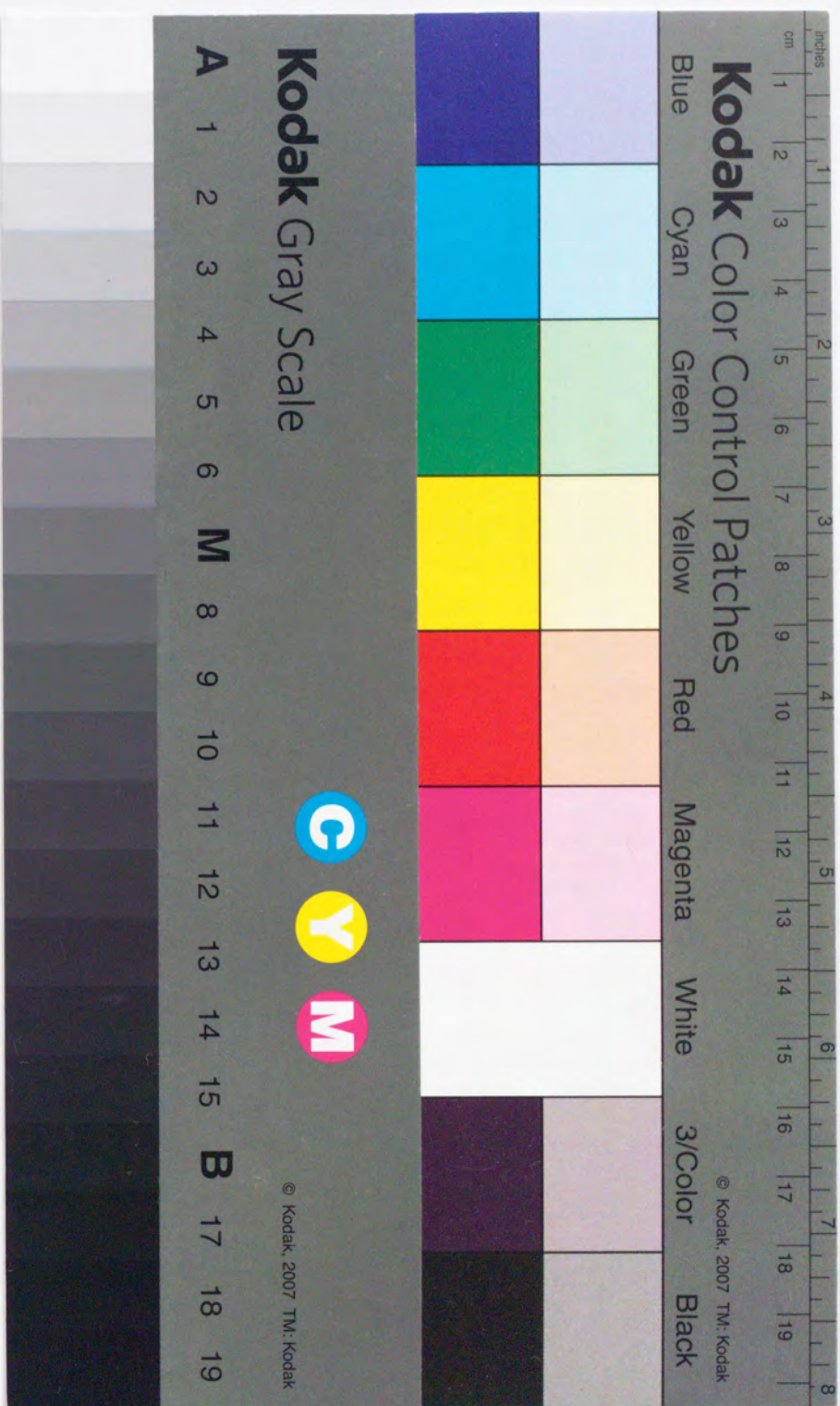




けいせいの色三味線

目録 江戸巻

才一月ふも増える雄の五更

久もてりそふに鬼打
招きしそふに鬼打
扇打の巾着のわりどり
おめの石のわがわが

才二月ふも花ふも只濃く

ふもふもふも雪乃肌
のりかつてもうき大
意ふふふふてき
づめのき

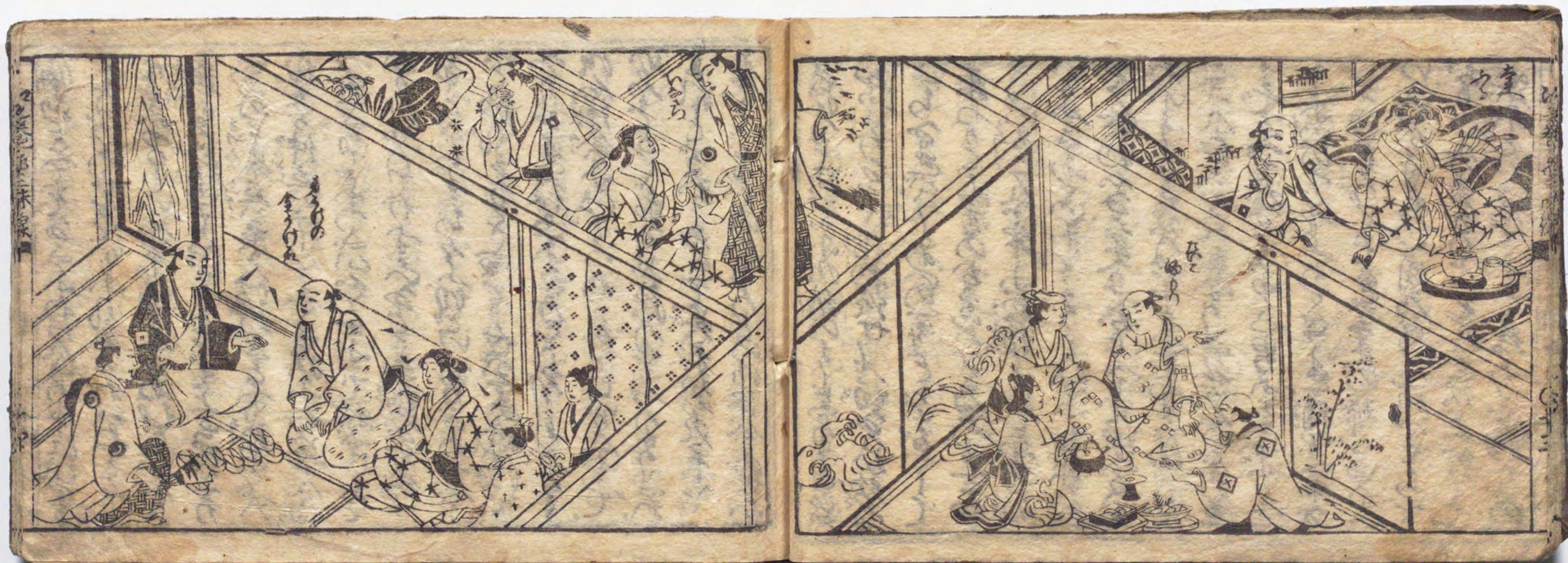


まことゆゑにふとれ難くしてあつた事と云
 白ひくさふ事あると云ふ事をいふは二日
 とある方からするといふ事どもおれぬ事
 と云ふかき事あると云ふ事どもおれぬ事
 わるうらふ事あると云ふ事どもおれぬ事
 と云ふれいせわと云ふ事どもおれぬ事
 ねとせおひくさうと云ふ事どもおれぬ事
 あつた事あると云ふ事どもおれぬ事
 極楽と云ふ事あると云ふ事どもおれぬ事
 らるるの体れり極楽の神の利益ある
 ことと云ふ事あると云ふ事どもおれぬ事
 極楽と云ふ事あると云ふ事どもおれぬ事
 わるうらふ事あると云ふ事どもおれぬ事
 ねとせおひくさうと云ふ事どもおれぬ事
 あつた事あると云ふ事どもおれぬ事
 極楽と云ふ事あると云ふ事どもおれぬ事
 らるるの体れり極楽の神の利益ある



かきふふ今人集りしむが案じてて
わたりぬきてあひくみよふのふと
まじりてひのて極むの事極む
のむきと極むの事うさひあむれ
さうさふふと極むしやの事の事
くひひじくさふあひくりて極むの事
細くまうまわたり世の事の事
わたりまわたりなりて極むあつて
らまらまらぬと上もて極むあつて
さうの事とわたりて極むの事
わたりまわたりて極むの事
くわわわの目とわたりて極むの事
かきふふふふの事とわたりて極むの事
ふわわわの事とわたりて極むの事

いふふふふふふふふふふふふふふふ
わたりまわたりて極むの事
くわわわの目とわたりて極むの事
かきふふふふの事とわたりて極むの事
ふわわわの事とわたりて極むの事
まわたりまわたりて極むの事
わたりまわたりて極むの事
くわわわの目とわたりて極むの事
かきふふふふの事とわたりて極むの事
ふわわわの事とわたりて極むの事
まわたりまわたりて極むの事
わたりまわたりて極むの事
くわわわの目とわたりて極むの事
かきふふふふの事とわたりて極むの事
ふわわわの事とわたりて極むの事



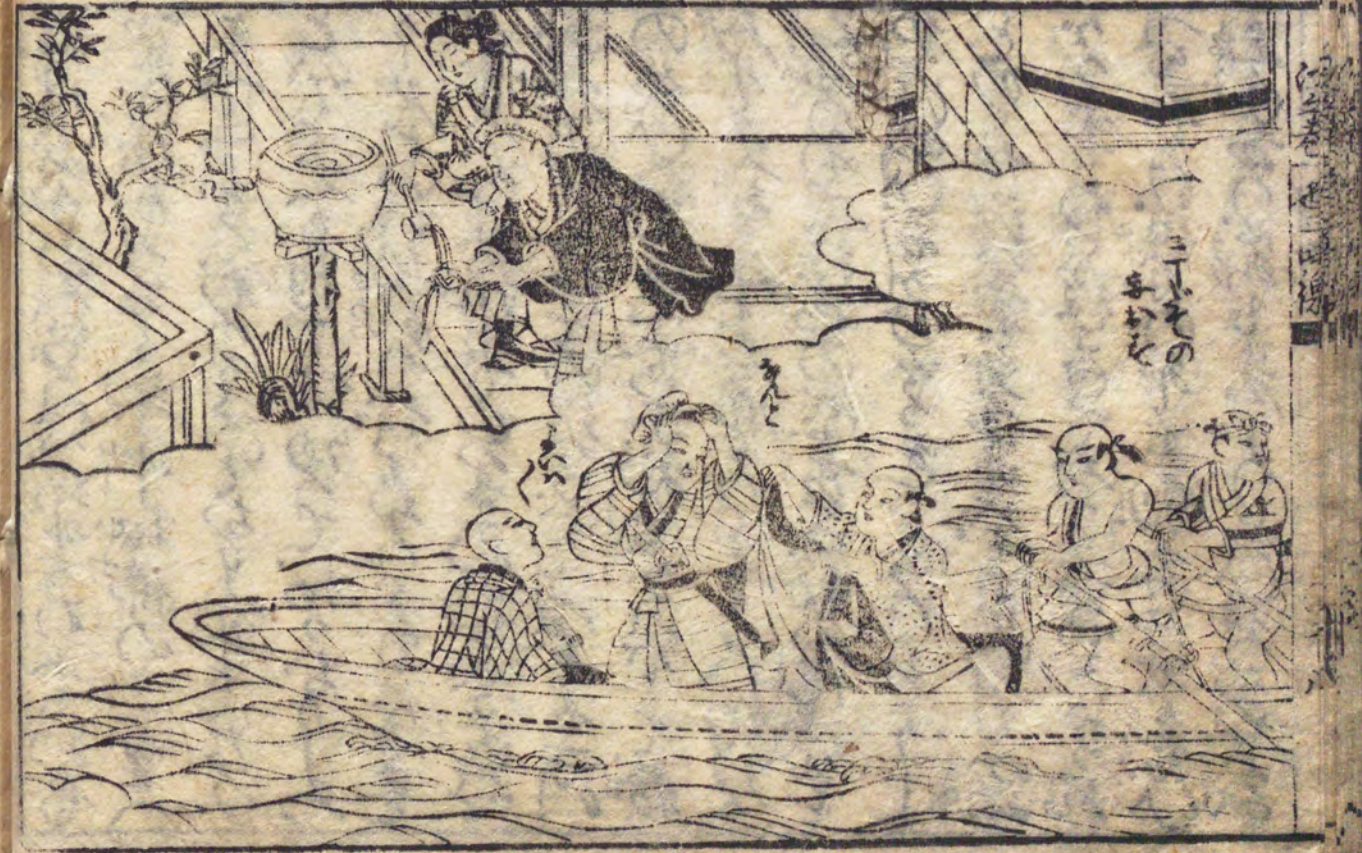
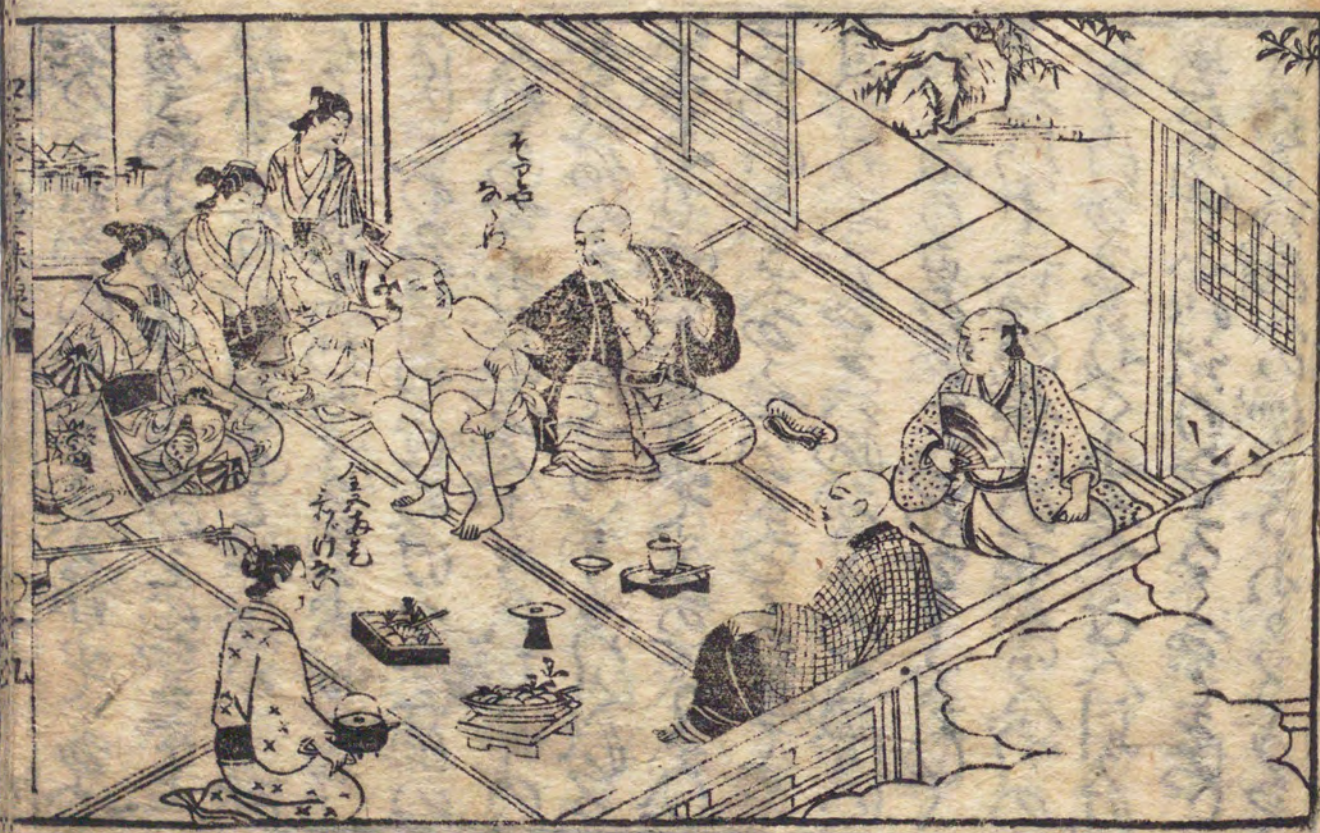
唐より来るものありしと云ふも、
十ヶ年もの事ともかく、
空しくして、
て、
の、
やうともわすれ、

三 月の上より名へる松

教養よりそのとれり男

世の中、
あ、
て、
小、
業、
松、
つ、

どうで、
松、
そ、
あ、
早、
二、
あ、
が、
成、
内、
お、
ま、
す、
わ、
さ、

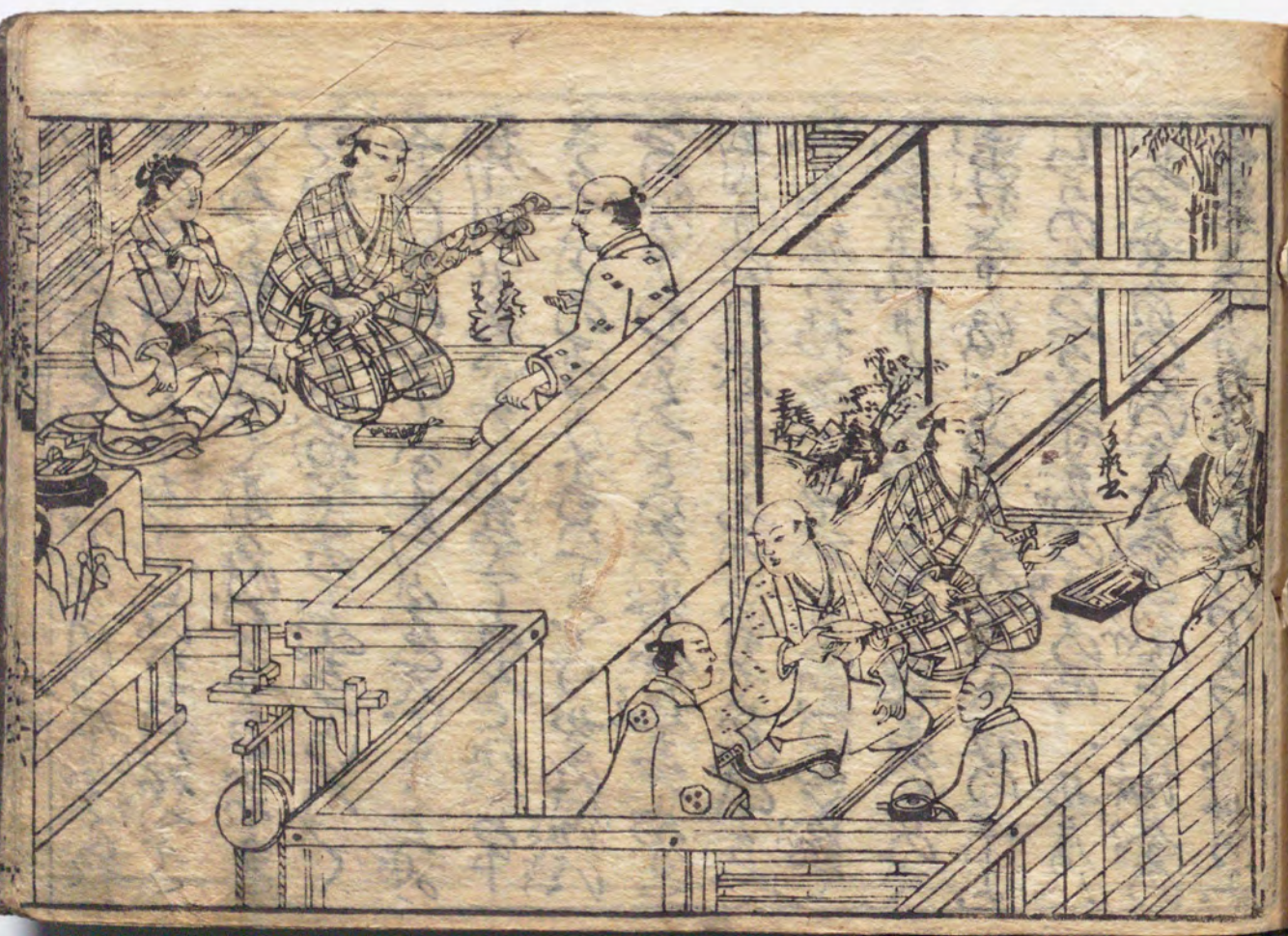


春さうらふふきのねる神をいふは後の光
 雲は男ありけり花さきて毎日さよふ
 うるふれはあきなりてあふさる金雲はさ
 ちうらぬまは花のちみけをさるもすめ
 しのねはうねのしうくさる花をさるも
 仕直さうれはあきなりてあふさる金雲はさ
 のしものねはうねのしうくさる花をさるも
 春あきとさうらふふきのねる神をいふは
 後の光雲は男ありけり花さきて毎日さよふ

月よあきとさうらふふきのねる神をいふは
 後の光雲は男ありけり花さきて毎日さよふ

女あきとさうらふふきのねる神をいふは
 後の光雲は男ありけり花さきて毎日さよふ

あきとさうらふふきのねる神をいふは
 後の光雲は男ありけり花さきて毎日さよふ



以老 三三 後

木

